

図書館とわたし

私の図書館との初めての出会いは小学6年生のときでした。校舎の真ん前には外壁が茶色の重厚な建築物葵文庫がありました。

一階には児童室があり、円卓がいくつか設えてあり、思い思いの本を読むことができました。二階が閲覧室、12歳以下の児童の利用は規則により禁じられていました。しかし、時折り二階に上がってみました。室内には建物を支える白い円柱が何本か立ち、子供ながらアカデミックな雰囲気を感じたものでした。カードケースに入っている閲覧票を初めて見たのも新しい体験で面白いものでした。

中学生となり、英語の学習が始まりました。これに合わせるかの如く、1951年、中学校校庭の隣り（旧武徳殿跡地）にCIE図書館（後のアメリカ文化センター、さらに日米文化センターと改称）がオープンいたしました。全体が真白なペンキで塗られたアメリカ調の建物でした。木造のためか、床が歩いたときにギシギシと鳴るのが不思議でした。オープン書架には約200種類の雑誌などが置かれ、それまでに見たこともない色鮮やかな雑誌が多かったです。特に印象が深かったのは「ライフ」「ナショナルジオグラフィック」でした。写真の素晴らしさには、日本の印刷物にない技術だと感心いたしました。また、世界各地の様子を興味深く見ることができました。小型ポケット英和辞典と首っ引きでタイトルを追ったものでした。

私が学んだ小学校は、太平洋戦争で戦災に遭い焼失。新制中学校は、新教育制度草創期の建物で、図書室を設ける余裕はありませんでした。それぞれ校内に設備されて



葵文庫外観(静岡県立中央図書館所蔵)

いなかった図書室に代わって、学校の隣り合わせに建てた二つの図書館を、日常的に利用することができました。

社会人になってからは忙しさにかまけ、図書館は遠い存在となってしまいました。

1970年、県立中央図書館が静岡市谷田に開館しました。有度丘陵地の閑静な一角です。緑の中、緩やかな勾配のアプローチの先に建つ図書館は、葵文庫と比べると閲覧室はグーンと広く、書架も多く、伸びやかな感じでした。車で往復し、調べものをよくしました。

1984年、市立中央図書館が城北公園内、旧制静岡高校跡地に開館。公園の緑を眺め、一時読書を止めて休息し、目を休めることで、落ち着いて本を読むことができました。

2009年、市内安倍口団地の一角に、複合施設“アカデ美和”が開設され、一階部分に市立中央図書館美和分館が開館。開館までには、多年に亘って「地元身近な図書館を創ろう」というグループの地道な粘り強い努力がありました。美和地域の熱い思いによって漸く開館した図書館を守り、育て、応援していこうと「美和図書館友の会」が結成されました。「友の会」は①地元や静岡市内の民話や伝承を紹介するお話し会「聞いてごろじ」を開催。②市内や他の地域の公共図書館などを見学して見聞を広めること。③総会に合わせて人形劇や演奏会の公演、講演会などを実施する。④月一度の読書会などの活動をしています。

読みたい本やいくつかの資料が直ぐに手に入る図書館が、歩いて15分以内で通えるということは、誠に幸運なことと感謝している毎日です。

美和図書館友の会 会長
小島 照二



2022年度 第14回静岡図書館友の会

総会・講演会 報告



静岡図書館友の会運営委員 太田 典子

総会

3月6日(土) 新型コロナウィルス感染拡大等の諸事情で初めて街中の呉服町札ノ辻クロスホールを会場として28名の参加者により開催いたしました。



田中代表の挨拶からは、昨年度拡大した感染症の厳しい状況下で市立図書館では利用の一部制限、入館時の記名要請、職員の感染により該当館での休館措置がとられた一方、市立中央図書館がリニューアルオープン、新県立図書館では資料費減額、正規職員減少阻止の要望書提出の成果で資料費予算も増え、設計者も決まるなど順調な進捗状況の報告がありました。

2021年度は多くの事業で延期や内容変更を余儀なくされました。

2022年度事業計画では、学習会「公共図書館と電子書籍」、昨年延期した『あいうえあそぼうとしゃかんで』をテーマにしずとしよフェスタを市立図書館と共催で開催予定。従来通り会報2回の発行、ホームページ更新、図書の寄贈予定。その他会計決算報告・事業予算の議案にも特段の質問や意見もなく拍手による承認を頂き閉会しました。



記念講演会

二度の延期を経て三度目の正直でドリアン助川氏の登場。演題は

小説『あん』に込めた気持ち

～生きることのもう一つの意味～ 積極的感受

還暦間近とは思えない颯爽とした身のこなし、ロッ

ク歌手だったという

張りのある声で放

送作家・深夜ラジ

オのパーソナリ

ティー・作家・そ

して明治学院大学

の教授としてご活

躍のなかで私達が見逃しがちなもう一つの生きる

視点を指摘してくださいました。それは人の為に

役立たなければ生きていないのか?常に

変化するこの社会に自身の生き方を丸投げしてい

いのか?それと切り離れたところに生きる意味が

あるのではないかと問いかけでした。

人生まわり道も必要。小説『あん』誕生までには

13回の書き直しがありました。樹木希林さんが

演じたハンセン病の主人公、徳江が眺めた月が「お

前に見てほしかったんだよ。だから光っていたんだよ。」とささやく声を感じ、この世に生まれて来た

意味に気付く場面をご自身が朗読されました。「積極的感受」とは、自然や動植物などとの関係性の中でこそ自分の存在を実感できること。社会に役立たないと生きていないなんてことはない

と結ばれました。

参加者52名は示された視点に気付かされ感動を持って帰路に着かれたことでしょう。



～東日本大震災から10年を振り返って～

第23回静岡県図書館Zoom交流会の報告



静岡図書館友の会運営委員 草谷 桂子



コロナ禍で延び延びになっていた第23回静岡県図書館交流会が、2月13日午後に個人宅を本部にオンラインにより開催されました。

講演テーマ

災害と図書館「3.11と福島の図書館員」

講師：鈴木 史穂氏

福島県立図書館専門司書

プロフィール：日本図書館協会認定司書

日本図書館協会代議員 東日本大震災は、福島県立安積黎明高校で学校図書館司書として勤務中に体験。その後、福島県内図書館で児童サービス、研修、協力事業などに関わる。日本図書館協会図書館災害対策委員会委員。

参加者はサテライトも含めて40名。後援いただいた静岡県立中央図書館館長・静岡県図書館協会会長の赤石達彦様から心強いご支援のご挨拶を頂き、ご講演に入りました。

福島市在住で被災時は高校司書、その後は福島県立図書館の司書としてご苦労されながら「3.11」に向き合ってきた講師ならではの体験と想いが伝わる心に響くお話でした。

穏やかな語り口でありながら、10年経過した今でも県外への避難者は未だ2万7千人以上いるということ等、あらゆる角度から示してくれるデータや画像の現実には衝撃でした。

被災直後の不確かな情報の無防備な拡散への疑義。交通手段がなく職場に行けなくなった時に近くの避難所で読み聞かせをしたこと。直後に県内各地の司書達の動きとコメントをまとめて発信したこと。その後の各地からのデータ収集と蓄積と

発信。大学等の他組織との連携等から、情報のブロの司書だからこそその視点と言動だと感銘を受けました。

勤務校の生徒さんの体育館での仕切りの中での授業、工夫を凝らした学校図書館の取り組み、また、被災直後に学校にラジオ、トランシーバー、固定電話、購買、放射線測定器があり、各分野の知識がある教師がいたことが役に立ったというお話も心に残りました。

被災や復興の過程だけではなく、非常時に得られたという「言葉」や「書物」や「他者との交流」等を巡っての幅広いお話から講師ご自身の感受性や思索の深さも伝わってきて、被災の過酷さ、防災の大切さを学ぶと共に、心豊かな時間を過ごさせていただきました。

「静岡でも、福島の3.11をしかと共有しました」「復興の大変さと人のパワーの力強さの両方を学ぶ事が出来ました」最後に、参加者からこのような感想が届いたことを申し添えます。

尚、当初予定していた県内図書館からの発信が延期となりましたことをお詫び申し上げます。

- ・あざれあ図書室
「男女共同参画」を図書館から
菊川 真紀子氏
- ・静岡市立図書館
コロナ禍対策とリニューアルオープン
田中 邦子氏
- ・牧之原市立図書館
図書交流館いこっと開館
水野 秀信氏

この3つのご報告は、近い機会に是非実現したいと考えています。皆様楽しみにお待ちしております。



1

要望書提出と資料費予算確保

2021年11月。当会は、新たな静岡県立図書館を望む会と連名で「資料費の推移表」と「アメリカでは増額の図書館コロナ対策費」の資料を添付して木苗直秀教育長宛に下記要望書（抜粋）を提出しました。次年度資料費が財政状況の厳しさから2割減額になりそうだと聞いていましたが、社会教育課や図書館、議会の頑張りもあり、前年のほぼ8500万円規模に戻すことができました。電子図書館の経費を合わせると9000万円を超える予算になりました。

静岡県立中央図書館資料充実費等についての要望書

・・・さて、図書館は「資料と人」でサービスの質が変わると言われます。コロナ禍の影響でどの自治体も財政事情が厳しくなっている中で、県立図書館が市町立図書館を支える役割が更に強く求められる時代となりました。県立図書館が市町立図書館を支援することで、コロナ状況下の県民の情報格差をなくし、全ての県民に読む喜び・知る喜びを供与して欲しいと願います。新県立図書館は「コロナ以後」に全国で初めて出来る県立図書館となりますので、後に続く図書館の良きモデルになって欲しいと思います。

2009年度以来9年間保持した1億円の資料充実費が、近年大幅に減少していることに、私達は強い危機感を抱いています。以上のことから下記の2点を要望いたします。

記

1. 価値観が多様化する時代をふまえ、県民が出会い、交わり、新しい文化を育み、県民のニーズに応える県立図書館と、市町立図書館を十分に補完し支援でき、さらに新館の蔵書も視野に入れた、少なくとも1億円以上の資料充実費の確保。
2. 県全体での図書館サービス水準を維持し、研修やネットワークの確立による市町立図書館支援が、十分に出来る職員の配置と予算措置。

2

新県立図書館設計者選定公開プロポーザル

新館の設計者選定の第2次審査が2月19日にグランシップで行われ、候補に残った6者による新図書館のデザインや機能についての公開プレゼンテーションと審査員のヒアリングが行われました。当会の田中・草谷・山崎の3名がサテライト会場に参加し傍聴しました。

各者とも40分間で、建物のテーマやユニバーサルデザイン、脱炭素化の取り組み、静岡らしさなどを説明。審査員からは、利用者や職員の動線、提案が持続する方法、財政的なこと等の質問がありました。各者のコンセプトは、「情報の海の確かな拠点」「静岡の水と光と風を感じる知のターミナル」「静岡の未来を担う文化創造の丘陵」等といった夢のあるコンセプトを表現した外観イメージ図が披露され、どんな建物でどんな使い方をするのか利用者として様々に想像が膨らみワクワクする時間でした。設計者は冒頭に「図書館の自由に関する宣言」を掲げ「人々が情報にアクセスする権利を保障する「知のサンクチュアリ（保護区）」と位置づけた、C+A・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体に決定しました。

図書館から広がった静岡での暮らし

静岡図書館友の会 鈴木 豊子



2022 年が無事に明けたと思っていたのも束の間、コロナオミクロン株が急激に感染拡大し、まん延防止等重点措置が実施されました。そして、この原稿を書いている 2 月下旬の今、延長されようとしています。オミクロン株は子どもへの感染の危険が高いと言われ、私が参加している西奈図書館が窓口のボランティアグループ「おはなしはらっぱ」「おはなしいずみの会」やトモエ文庫の活動も中止になっています。今は措置が早くに解除され、子ども達に会える日を待ちながら、充電期間と考えて日々を過ごしています。

私が静岡に暮らすようになったのは今から 6 年前の事です。夫の定年退職にともない神奈川から転居して来ました。夫の両親との同居でもありません。不安や迷いはありましたが、「とりあえずやってみよう」「だめなら戻ってやり直す」介護の仕事で学んだ言葉に後押しもされて静岡に暮らす事を選択しました。実際始めてみるとやっぱり居心地が良くありません。ここは自分の居場所ではないと思えて気持ちの晴れない日が続きました。悶々とする中で、仕事中は本も読む余裕すらありませんでしたが、時間がたっぷりある今なら本が読めるはずと図書館に通い始めました。図書館は静かに優しく私を待っていてくれました。図書館は居心地が良く、そして本を読む時間が少しずつ気持ちを落ち着かせ、心も解放してくれたと感じます。その頃には図書館内のボランティア募集のチラシが目が行くようになっていました。

ボランティア希望と図書館員さんに声をかけ、早速「おはなしはらっぱ」を紹介されました。これまで絵本や子ども達に関わった事が全く無く、

本が好き子どもが好きと言う単純な動機で飛び込みましたが、仲間と一緒に時を過ごすうちにその歴史と子ども達への想い、引き継がれる良い絵本やおはなしを届けようとする姿勢に驚き感動もしました。そして子ども達と接するうちに絵本やおはなしの魅力に引き込まれ、もっと学びたいと思うようになっていました。

それから「おはなしを楽しむ会（現在はおはなしいずみの会）」、トモエ文庫へと広がっていき、ここでも長年絵本やおはなしに関わり、子ども達の健やかな成長を見守っている先輩達にも出会いました。

おはなしはらっぱから始まって 5 年が経とうとしています。居場所を探して迷っていた私を、図書館が沢山の友達、絵本、おはなしをつないでくれたのだと思います。まだまだ知らない事も多く学びの途中ですが、皆に支えられながらこれからも子ども達に出会い、絵本やおはなしを一緒に楽しんでいきたいと考えています。

そして今は何より、一日も早い日常が取り戻せる事を願うばかりです。



活動記録

2021しずとしよフェスタ



『ぼくは、図書館がすき』 2021.10.24(日)

静岡図書館友の会運営委員 山下 多津美

毎年「しずとしよフェスタ」については、静岡市立中央図書館と静岡図書館友の会の共催で秋に開催していますが、2021年は晴天の下、10月24日(日)に中央図書館館内と城北公園の一部を利用して行われました。

2020年に引き続き新型コロナ禍で多くの制約がある中、限られた条件の中でできるだけことをやろうとの思いから、「漆原宏写真展『ぼくは、図書館がすき』」を中心に実施しました。新型コロナ禍に翻弄されて計画は当初の内容から二転三転……、ようやく全国の公共図書館でリレー形式により実施されている写真展に落ち着きました。

写真展は1階玄関ホール展示コーナーで10月12日から11月7日まで実施し、前・後半に分けて写真の入れ替えを行いました。フェスタ当日には2階ホールにも展示し、全部の写真を見られるようにしました。また、参加者から漆原宏さんへのメッセージも書いてもらい、ご本人へお届けすることができました。

写真展のほかに、図書館内では「デージー図書(声で聴く本)を聞いてみよう:音訳ボランティアひびきの会(協力)」「中央図書館リニューアルクイズ」が実施され、賑わっていました。



又、晴天だったことから中央図書館と隣接した城北公園にて「図書館や本のおはなし会」が澄み切った青空の下実施され、室内での制約からはかなり解放され多くの家族連れ等の方々が楽しんでいました。お話し会は「ねこバス」「静岡おはなしの会」「あさはたお話し会」「個人ボランティア」の方々から協力していただきました。

2022年は、新型コロナ禍から解放され「普通のフェスタ」ができることを願っています。



図書館からこんにちは

静岡市立図書館の福祉サービス



「読書バリアフリー法」が制定され、「誰もが読書できる社会づくり」を目指し、より充実したサービス提供の意識が高まっている昨今。静岡市立図書館でも福祉サービスを実施していますが、実はあまり知られていないのでは？と感じます。そこで、今回は福祉担当としてサービスを紹介いたします。

まず、すべての方にご利用いただけるものとして、点字図書と大活字図書、LLブック、拡大読書器（中央・西奈・長田・北部図書館に設置）があります。

そして、視覚障害または活字のままでも本を読むことが困難な方に、「DAISY（デイジー）」と呼ばれる録音図書の貸出（※）を行っています。無料で発受することができる施設として日本郵便から指定を受けている

静岡市立中央図書館 主事 長谷川 朱夏

ため、点字図書・録音図書は郵送代金がかかりません。

他にもご希望の資料を自宅に届ける宅配サービス（※）や、音訳ボランティアによる対面朗読サービス（※）も実施しています。

（※が付いているサービスは、通常の利用者登録とは別に福祉サービスの登録が必要となります。）

これらのサービスについて、「知っていればもっと早く利用していたのに」と言われることもあり、まだまだ周知が足りないと日々感じています。より多くの方に知っていただけるよう、様々な場面や媒体を利用して宣伝を行い、同時にサービスの強化も図ってまいります。

市内図書館ニュース

YA 世代向け講座「読書回転寿司」を実施しました！

静岡市立図書館では、YA 世代と市立図書館を繋ぐことを目的として、中高生向けのイベントや講座、展示、情報発信などを企画・実施しています。

コロナ禍により、イベントや講座の開催が難しい昨今ですが、令和3年度は、静岡市立清水桜が丘高等学校・静岡女子高等学校・静岡県立静岡商業高等学校の3つの高校で講座を実施することができました。高校生へ向けた講座は、通常「ブックトーク」を行っていますが、2月に訪問した静岡商業高校では、新方式の講座を開催しました。タイトルにあるとおり、「読書回転寿司」という企画です。全国の学校・公共図書館でも実践されており、本との出会いの確率を高めることを目的としています。内容は次のとおりです。

- ①図書館職員が選書した本のセットを生徒に配ります。
- ②セットの中から好きな本を1冊選び、5分間読書を行います。
- ③5分後、記録シートに記入し、セットを隣の子に渡します。

静岡市立中央図書館 主事 篠崎 あさ美

この①から③の作業を何度か繰り返すと...本が回転寿司のように生徒の席を回っていく「読書回転寿司」となるのです。

私たちにとっても初めての試みとなるため、当日は生徒の皆さんがどんな反応をするのか

不安がありました。しかし、講座が始まると、配られた本を興味深そうに見たり、集中して読書をしたりする様子が見られました。アンケートに、「もっと読みたかった」と書いてくれた生徒もいました。

読書回転寿司は、普段読まない分類の本や、新しい本との出会いのきっかけにもなります。来年度以降、ブックトークと併せて、開催の機会が増えていくと嬉しいです。そして、今後も様々な方法で、現代のYA世代の読書活動が豊かになるよう努めていきたいです。



令和3年度 第2回静岡市図書館協議会報告

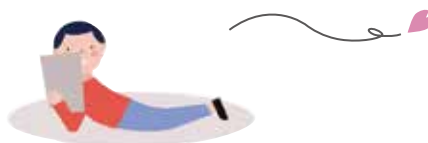
静岡図書館友の会運営委員 清 尚子

2021年12月10日 静岡市立中央図書館にて本年度2回目の図書館協議会が開かれました。図書館からの報告の後、各委員から様々な意見や提案が出されました。

最後に電子書籍について言及されました。次回のシステム更新時(令和6年)を目途に取り組むとのことでした。委員から「誰に向けてどういうことをしたいのか指針を立て、検討すべき」「資料費とは別に予算化してほしい」との意見がありました。

また、1月25日に予定した視察はまん延防止等重点措置の最中であることから中止となりました。

しずとも情報



2022しずとしょフェスタ

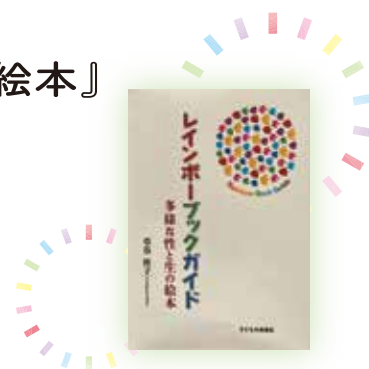
今年のフェスタは、スギヤマカナヨさんの原画展やワークショップを予定しています。日時・詳しい内容などは、会報次号、HP、チラシなどでお知らせします。どうぞお楽しみに!

「公共図書館と電子書籍」学習会

詳細が決定しましたら、会員の皆様にはお知らせし、当会HPに掲載いたします。

『レインボーブックガイド 多様な性と生の絵本』

子どもの未来社より2月に発刊されました。当会運営委員草谷桂子が、232冊の多様な性と生に関わる絵本を紹介しています。



静岡図書館友の会会報 No.27 2022.4
静岡図書館友の会 代表 田中 文雄
連絡先:(事務局携帯) 080-6910-9434
Eメール: shizutomo2008@yahoo.co.jp
HP: <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>
会員数: 203人 (2022年3月現在)

編集後記

戦争の報道を見て心を痛めています。情報統制されることの怖さ、自分で考えることの大切さを痛感しています。(S)
同じく、連日の報道に心が痛みます。コロナ禍に度々の地震…、不安な日々が続きます。自分にできることは何か、考え、過ごしていきたいと思います。(Y)